

「大磯談話室はまひるがお」存続についての陳情

1. 陳情の要旨及び理由

この場所で障害者、子育てに悩む保護者、一人暮らしの高齢者などから寄せられる相談活動を始めて以来4年になります。この間、土曜日や夜8時頃まで対応に応じるなど行政に接することが出来にくい勤め帰りの方々の相談や障害、子育て、高齢など枠に縛られない家族ぐるみの継続した相談など行政の枠組みでは難しい相談もうけてきました。緊急の時には日曜日も対応するなど臨機応変、必要に応じて活動してきました。相談をお受けした方はこれまで630名以上、喫茶を利用された方は10,500名を超えます。その他、うたごえ喫茶、パステル画講座、読書会、手芸教室、造形教室など継続的な様々な事業に参加されている方はのべ1,000名を超えます。また、神奈川県からの補助金をもとに今年3月に整備されたオストメイト機能を備えたパブリックトイレは町民を初め、観光にみえた方々にも重宝されております。老若男女、障害のあるなしを越え、非常に多くの町民の皆さんから活発に利用される場となっておりますことは今までにも広報「照ヶ崎だより」や町内の掲示板に掲示する各種事業のお知らせなどいろいろな形でお伝えしてきました。

こういった事業を行うため、多くの資金を投入してきました。「大磯談話室はまひるがお」はNPO法人大磯福祉コミュニティが運営しておりますが会員一人一人はごく一般の人間であり、強い資金源を持つ者はおりません。会員募集や寄付金を集める活動に常に取り組みできましたが、思うようには集まりません。一件多額の寄付をいただいたものの、この4年間の活動費や施設の改装費は個人が一時立て替えをしており、その返却にあてなければなりません。そういったことを考えると公の支援が受けられないのであれば来年3月をもってこの場を閉める決断を下さざるをえません。今回、この重大な決断を公開することを理事会で決定し、利用いただいている皆さんに文章で示しました。「相談にのってもらったり、裁縫やおしゃべりをしたり、家から出るきっかけになっていた。大切な居場所がなくなったらまた病気が重くなるのではないか？」という障害者の声、「赤ちゃんとひと休みして、授乳したりおむつを替える町の東側のとても便利な場所だったのに。一人ぼっちのお母さん同士情報交換したり、子ども連れで安心して使える場所がなくなったら困る。」というお母さんの声、「たまにここに来て食事をしながらおしゃべりするのが楽しみだったのに。」

という一人暮らしの高齢者の声など驚くほど多くの切迫した声が寄せられております。

自殺防止のゲートキーパーの役割を担うなど、困りごとや不安を持つすべての人がとにかく駆け込める場として、また多くの町民が集うことで市民活動支援の拠点としての「大磯談話室はまひるがお」継続のために10月26日付で大磯町長に要望書を提出しておりますが、大磯町議会におかれましても重ねてご支援をいただけるよう働きかけていただきたく陳情をいたします。

2. 陳情事項

- (1) 「大磯談話室はまひるがお」の継続的な存続のために大磯町から財政上の支援をするよう、平成25年度大磯町予算にもりこむこと。

平成24年11月8日

大磯町議会議長

渡辺 順子様

住所：大磯町大磯960番地3

NPO法人大磯福祉コミュニティ

理事長 若菜俊洋

電話 0463 (67) 9085

